



地域の子どもや大人が集まり、日野町黒坂地区活性化の核となることを目指して、旧黒坂小やJR黒坂駅周辺、メイン通りなどで特色のあるイベントを開催している。

代表の梅林敏彦さん(77)は下黒坂出身で高校生まで黒坂地区で暮らした。2007年に東京からUターン。以前あった食堂や喫茶店は姿を消し、人口減や高齢化の速度も加速していた。こうした古里の状況を目の当たりにし、16年、かつて大勢の買い物客でにぎわった「黒坂大歳の市」を数十年ぶりに復活させた。このにぎわいを日常のものにしたいと、19年、黒坂フェ

関係人口で地域活性化

85 □ 地域づくり団体「黒坂フェスタの会」(日野町)

スタの会を立ち上げた。出張水族館、屋台やワークショップ、全国の鉄道ファンと地元住民をつなぐ文化祭などを企画した。



黒坂フェスタでイノシシ鍋を振る舞う地域住民(右)。イベントを通してさまざまな交流が生まれている。3月17日、日野町黒坂の旧黒坂小

梅林さんは「面白いことをやっているのを見てもうっとうとで、自分たちでも何か始めてみたいという新しい動きが生まれてくるはず」と語る。

実際、土曜の朝に軽トラの荷台に野菜を並べて売る「軽トラ市」の開催や、夏の盆踊りを復活させたいという自主的な動きも生まれた。取り組みが評価され、本年度の鳥取県令和新时代創造県民運動活動表彰で最優秀賞に選ばれた。「交流人口でにぎわいを増やし、関係人口で地域を活性化させる。その中から移住者が出てくれば」と梅林さん。今後は、大学生と協力して、まちなかに空き家を使った交流拠点をつくることを目指している。

(おわり)